

株主メモ

- **事業年度**
毎年4月1日～翌年3月31日
- **定時株主総会**
毎年6月
- **基準日**
定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日
- **公告方法**
電子公告(www.nissanchem.co.jp)
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- **上場金融商品取引所**
株式会社東京証券取引所

●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金の支払いについて

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

但し、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。


- **株主名簿管理人**
三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(〒100-8233)
- **特別口座の口座管理機関**
三井住友信託銀行株式会社
- **各種お問合せ先、郵便物送付先**
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(〒168-0063)
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
- **1単元の株式の数**
100株

IR情報はホームページからもご覧になれます。
<http://www.nissanchem.co.jp>



日産化学工業



 日産化学工業株式会社

株主・投資家の皆様へ Business Report

第143期 中間報告書

2012年4月1日から2012年9月30日まで



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当中間期における国内景気は、公共投資を中心とする東日本大震災からの復興需要が下支えをしましたが、海外経済の減速を背景として輸出が弱含んだことから、回復に向けた動きが足踏み状態となりました。

このような状況のなか、化学品部門は、国内販売は昨年並みとなりましたが、メラミンをはじめ輸出が大きく減少し、売上高は前年を下回りました。機能性材料部門は、ディスプレイ材料では顧客の稼働率上昇、半導体材料では半導体の高集積化に伴う多層

材料の伸長により増収となりました。農業化学品部門は、「ラウンドアップ」（非選択性茎葉処理除草剤）、チフルザミド（殺菌剤）が好調に推移しました。また、医薬品部門は、「リバロ」（高コレステロール血症治療薬）の国内における順調なシェアアップに加え、海外向け原薬出荷も増加し、ライセンス一時金収入の減少をカバーしました。

この結果、当期の業績は増収増益となりました。なお、中間配当金につきましては、1株当たり12円とさせていただきます。

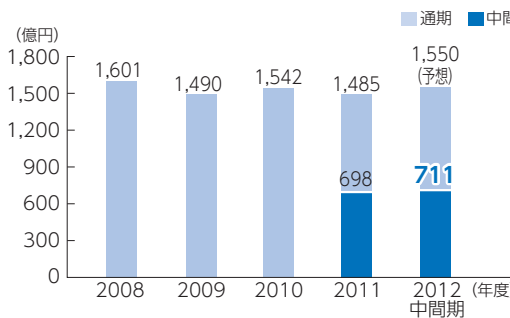
今後の見通しにつきましては、海外経済の先行き不透明感が強まるなど、予断を許さない事業環境が継続するものと想定しております。このような情勢におきましても、当社グループは、新製品および新事業の創出に注力するとともに、先を見据えた設備投資を積極的に実施してまいります。また、持続的な成長、企業価値のさらなる向上を目指し、来年度スタートする3ヵ年の中期経営計画「Vista2015 StageⅡ」の策定を進めております。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

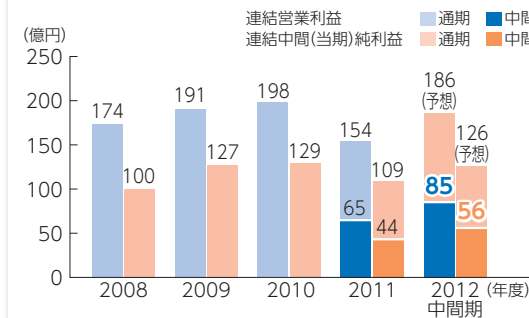
取締役社長 木下 小次郎

連結財務ハイライト

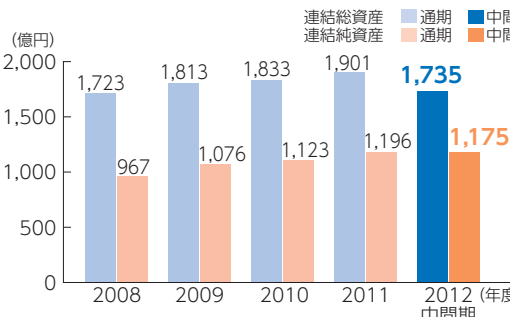
1 連結売上高



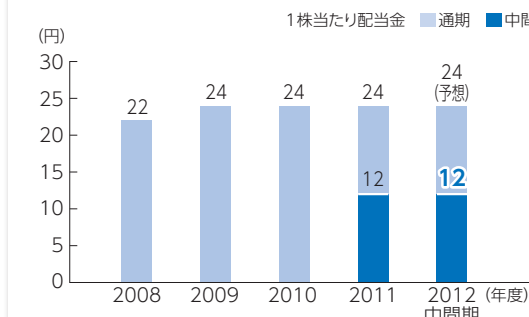
2 連結営業利益／連結中間（当期）純利益



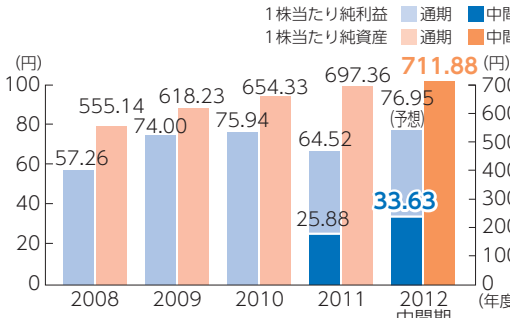
3 連結総資産／連結純資産



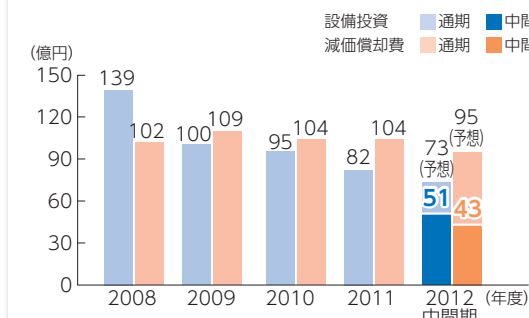
4 1株当たり配当金



5 1株当たり純利益／1株当たり純資産



6 設備投資／減価償却費



セグメント別事業の概況



3 [ラウンドアップマックスロードAL] (希釈済みシャワータイプ)

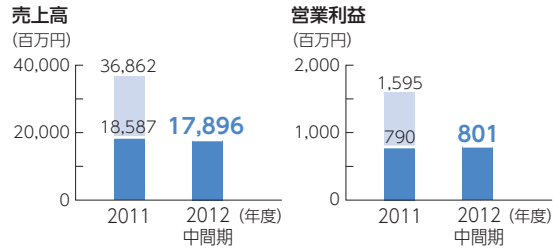


4 高コレステロール血症治療薬「リパロ」

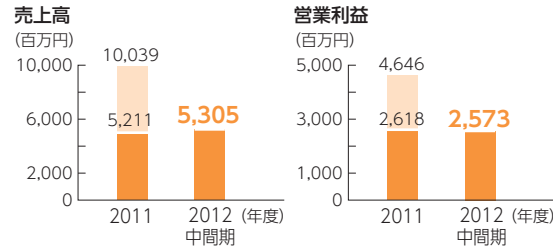


6 全国都市緑化フェアTOKYO ガーデンコンテスト

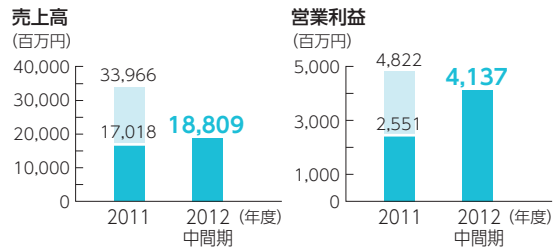
1 化学品部門



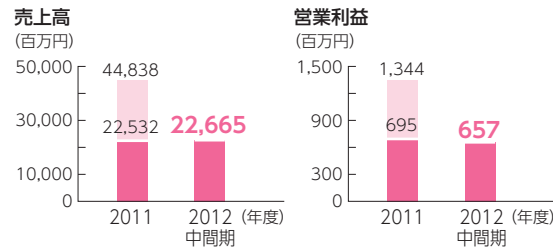
4 医薬品部門



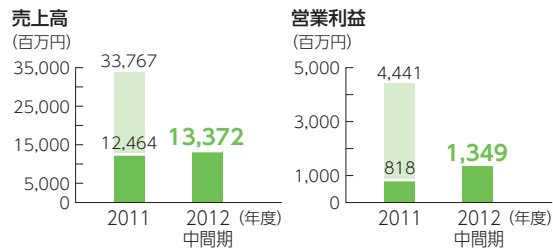
2 機能性材料部門



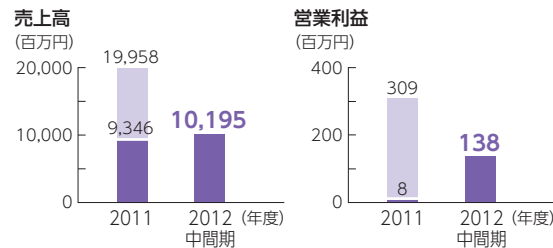
5 卸売部門



3 農業化学品部門



6 その他の部門



1 化学品部門

基礎化学品は、尿素、硫酸が順調に推移しましたが、**メラミン** (合板用接着剤原料等) の海外需要が低迷したことから売上高が前年を下回りました。また、ファインケミカルは、「**テピック**」 (封止材用等特殊エポキシ) の粉体塗料用硬化剤向けの販売が落ち込んだことなどにより、減収となりました。この結果、当部門の売上高は178億96百万円 (前年同期比6億90百万円減)、営業利益は8億1百万円 (同10百万円増) となりました。

4 医薬品部門

「**リパロ**」 (高コレステロール血症治療薬) は、国内で順調にシェアが拡大しました。また、海外向けも堅調に推移し、原薬の販売が増加しました。一方、開発中の新薬に関するライセンス一時金収入 (マイルストーン) はありませんでした。この結果、当部門の売上高は53億5百万円 (前年同期比93百万円増)、営業利益は25億73百万円 (同44百万円減) となりました。

2 機能性材料部門

「**サンエパー**」 (液晶表示用材料ポリイミド) は、スマートフォンおよびタブレットPCに加え、テレビ用液晶パネル向けが増加しました。また、次世代半導体向けの多層材料の需要が拡大しました。一方、「**スノーテックス**」 (電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等) は、主要顧客向け販売が前年水準まで回復するには至りませんでした。この結果、当部門の売上高は、188億9百万円 (前年同期比17億90百万円増)、営業利益は41億37百万円 (同15億86百万円増) となりました。

5 卸売部門

電子材料関連製品および農薬などの販売が伸び、当部門の売上高は226億65百万円 (前年同期比1億32百万円増)、営業利益は6億57百万円 (同37百万円減) となりました。

連結売上高
71,129百万円
2012年度
(中間期)

3 農業化学品部門

国内では「**シリウス**」 (水稻用除草剤) は競争激化により減少しましたが、「**ラウンドアップ**」 (非選択性茎葉処理除草剤) は一般家庭用を含め好調に推移しました。海外では、「**タルガ**」 (畑作用除草剤) がインドの干ばつ等の影響を受けましたが、「**チフルザミド**」 (殺菌剤)、「**サンマイト**」 (殺虫・殺ダニ剤) の販売が増加しました。この結果、当部門の売上高は133億72百万円 (前年同期比9億7百万円増)、営業利益は13億49百万円 (同5億30百万円増) となりました。

6 その他の部門

エンジニアリング事業の増収などにより、当部門の売上高は101億95百万円 (前年同期比8億49百万円増)、営業利益は1億38百万円 (同1億29百万円増) となりました。

ビジネストピックス **農薬原体「アルテア」の製造プラント完成**

「アルテア」(NC-620)は、スルホニルウレア抵抗性雑草に有効な水稻用除草剤です。本年1月に韓国で販売を開始し、日本では、年内の登録取得、来年の上市を予定しております。

来年以降の国内外での本格的な販売に備え、製造設備の建設に着手し、本年9月、小野田工場に原体製造プラントが完成いたしました。また、埼玉工場では来年5月の製剤設備完成に向け順調に工事が進捗しております。

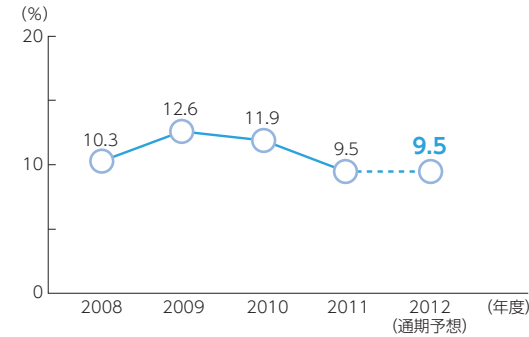
当社は、今後も自社での新たな農薬の創出を目指し研究開発に注力するとともに、他社剤の導入などを積極的に実施することでラインナップを拡充し、農業化学品事業の拡大を図ってまいります。



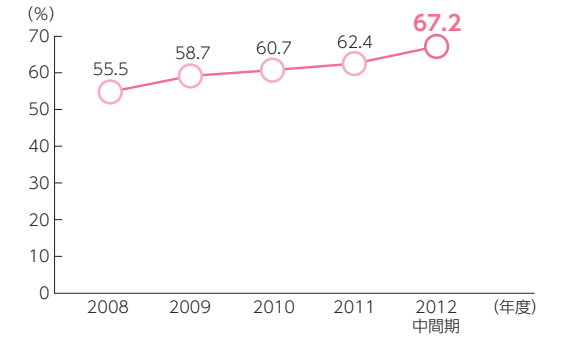
▲「アルテア」原体製造プラント

主要指標推移

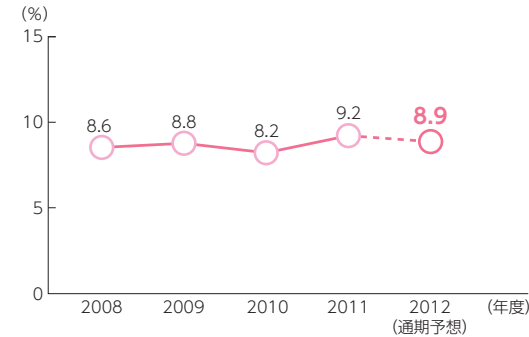
●連結ROE



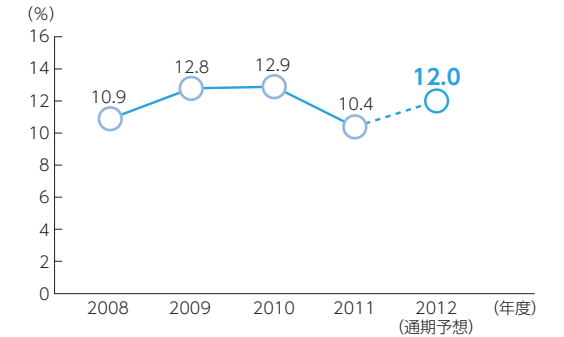
●連結自己資本比率



●売上高研究開発比率

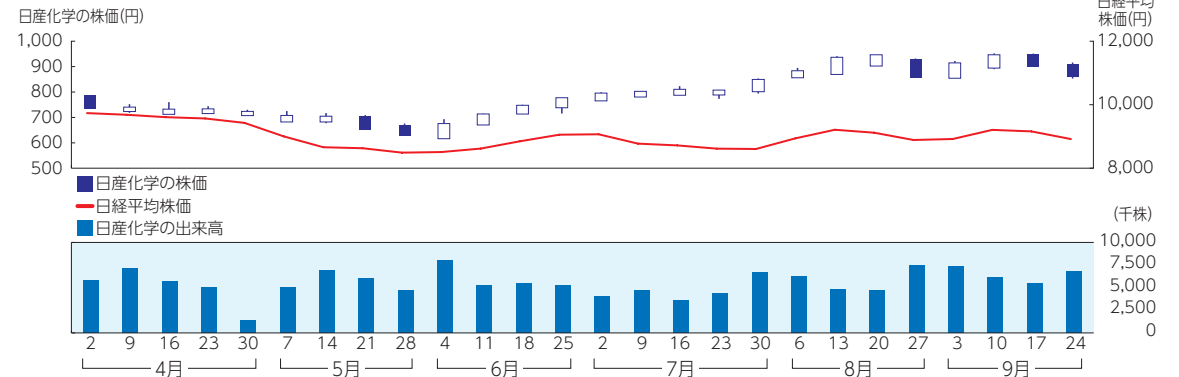


●売上高営業利益率



※連結ROEの通期予想は2012年5月時点。他は2012年10月時点。

●株価および出来高(2012年4月~2012年9月)



CSRトピックス **サイエンス・プロジェクト (小学生を対象とする特別授業)**

当社は、地域への社会貢献活動の一環として、「サイエンス・プロジェクト」と題し、小学校への出張授業を実施しております。

昨年度は、「身近にあるぞ!科学の不思議!」をキャッチコピーとし、当社物質科学研究所(千葉県船橋市)の研究者が、近隣の二校の小学校で「芳香剤作り」、「信号反応(混ぜると溶液の色が変化する実験)」など、身近にあるものと科学との関連性をテーマとする授業を行いました。参加した児童は、普段体験することのない実験に真剣かつ熱心な態度で取り組み、自然現象に対する驚き、科学の面白さを実感した様子が伺えました。

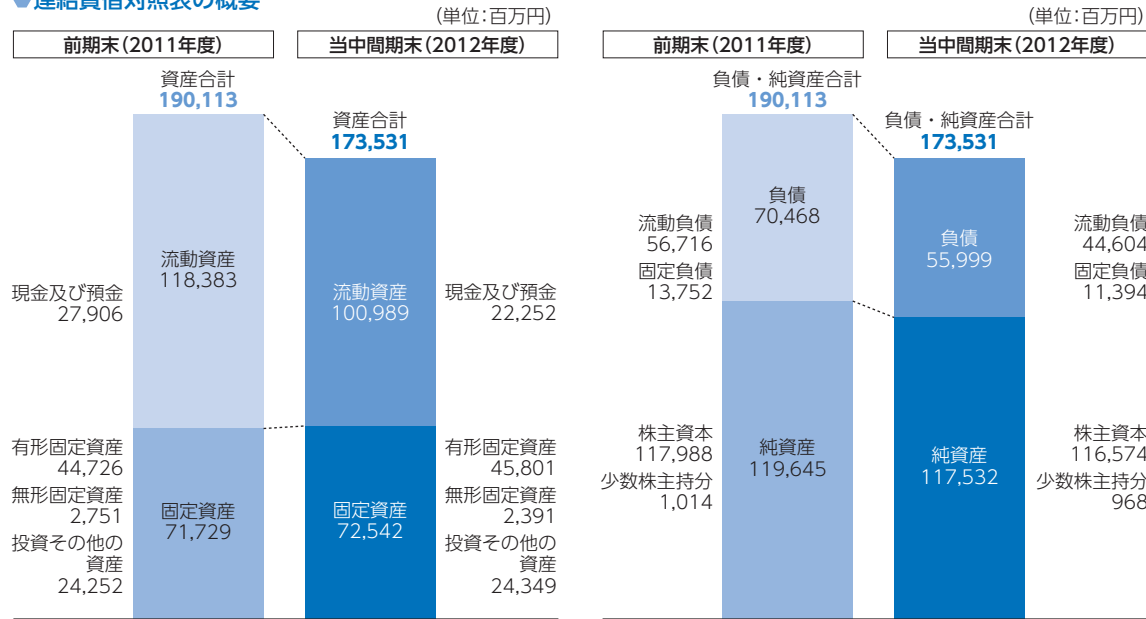
当社は、子どもたちの科学への関心が高まるきっかけとなることを願って、これからもサイエンス・プロジェクトを継続することに加え、さまざまな活動を通して地域社会との関わりを深めてまいります。



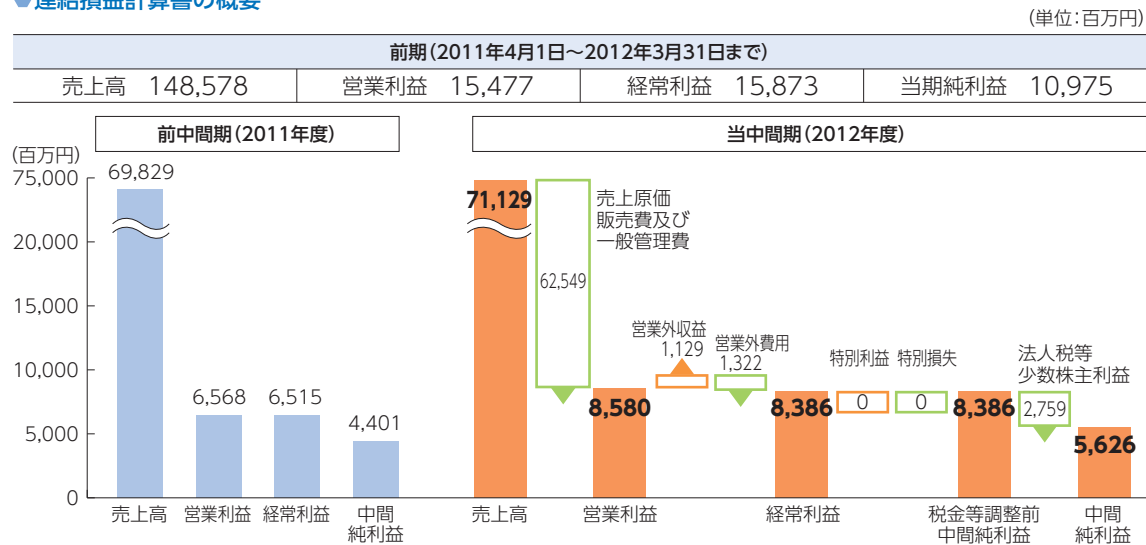
▲授業風景

連結財務の状況

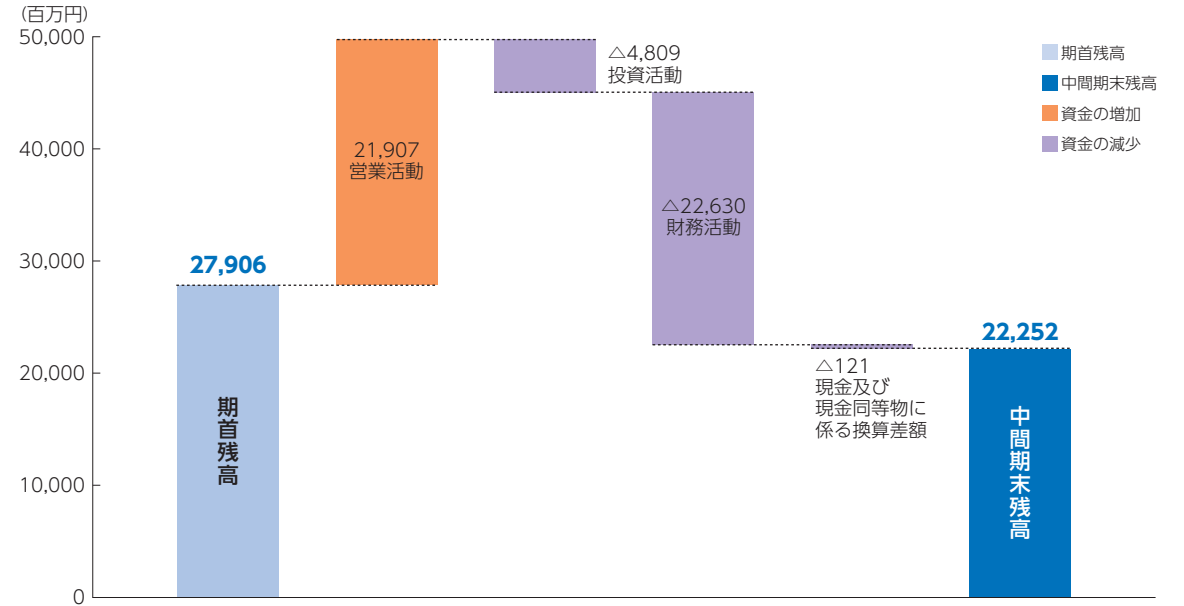
●連結貸借対照表の概要



●連結損益計算書の概要



●連結キャッシュ・フロー計算書の概要



POINT 1 有利子負債

負債のうち有利子負債残高は、前期末に比べて15,536百万円減少し、23,360百万円となっています。

POINT 2 営業外費用

営業外費用には、為替差損273百万円、有価証券評価損257百万円などを計上しています。

POINT 3 自己株式の取得

平成24年5月16日から平成24年8月30日まで(約定ベース)、自己株式の市場買い付けを実施したことで、財務活動によるキャッシュフローに自己株式の取得による支出が5,000百万円含まれています。

